

# 会社が用意したプロジェクト管理ツール を私が使いこなせている 2つの要素 ～私にください、管理者権限を～

SPI Japan 2015  
October 22

ウイングアーク 1 s t 株式会社  
開発本部SVF開発統括部プロジェクトマネジメント支援グループ

高橋 裕之 (takahashi.hr@wingarc.com)

# 会社紹介 と、私について

## 会社情報

- 商号 : ウイングアーク1st株式会社 (WingArc1st Inc.)
- 所在地 : 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1 渋谷インフォスタワー
- 創業 : 2004年3月
- 資本金 : 1億円
- 事業内容 : ツール・ミドルウェア製品の開発・販売、導入支援・保守サポートサービスの提供
- 従業員数 : 396名 (2014年3月1日現在)
- 売上高 : 133億円 (2014年2月期) ※連結ベース
- 取引金融機関 : みずほ銀行 三菱東京UFJ銀行 三井住友銀行 三井住友信託銀行



本社オフィス (渋谷インフォスタワー)

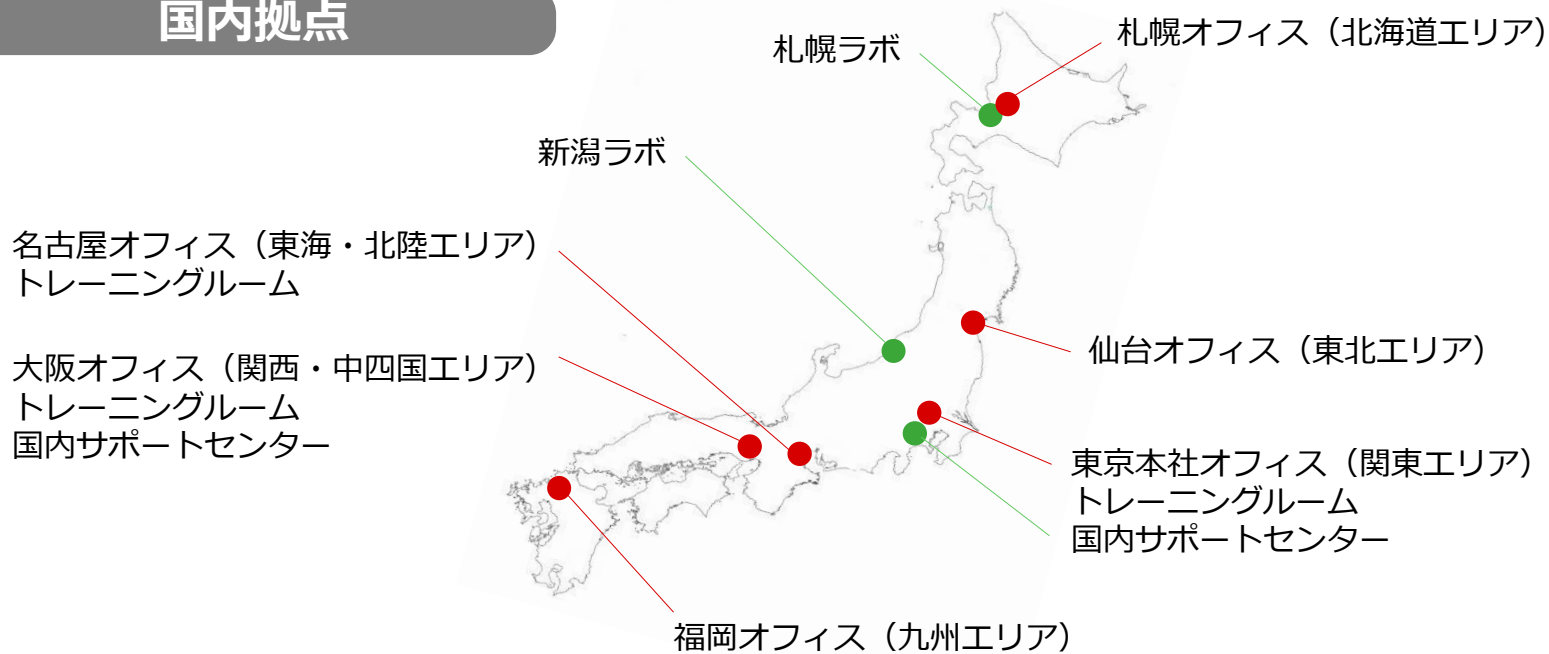
## グループ会社

- 文雅科信息技术 (上海) 有限公司  
地址 : 上海市黄浦区淮海中路398号博银国际大厦15阶DE1室 邮编 : 200020
- 文雅科信息技术 (大连) 有限公司  
地址 : 大连市西岗区中山路147号森茂大厦20F 邮编 : 116011
- WingArc Singapore Pte. Ltd.  
20 Collyer Quay #23-01, Singapore 049319
- バリオセキュア株式会社  
〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1 渋谷インフォスタワー14F



WingArc Singapore Pte. Ltd.  
シンガポールオフィス

## 国内拠点



【本 社】〒150-0031	東京都渋谷区桜丘町20-1 渋谷インフォスター
【大 阪】〒530-0001	大阪府大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビル11F
【名古屋】〒460-0003	愛知県名古屋市中区錦2-3-4 名古屋錦フロントタワー3F
【福 岡】〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前1-15-20 NOF博多駅前ビル 2F
【仙 台】〒980-0021	宮城県仙台市青葉区中央2-2-10 仙都会館ビル 6F
【札 幌】〒060-0808	北海道札幌市北区北8条西3-32 8・3スクエア北ビル8F
【新 潟】〒950-0911	新潟県新潟市中央区笹口1-26-9 アーバンネット新潟笹口ビル4

## 海外拠点



文雅科信息技术（上海）有限公司  
上海本社オフィス

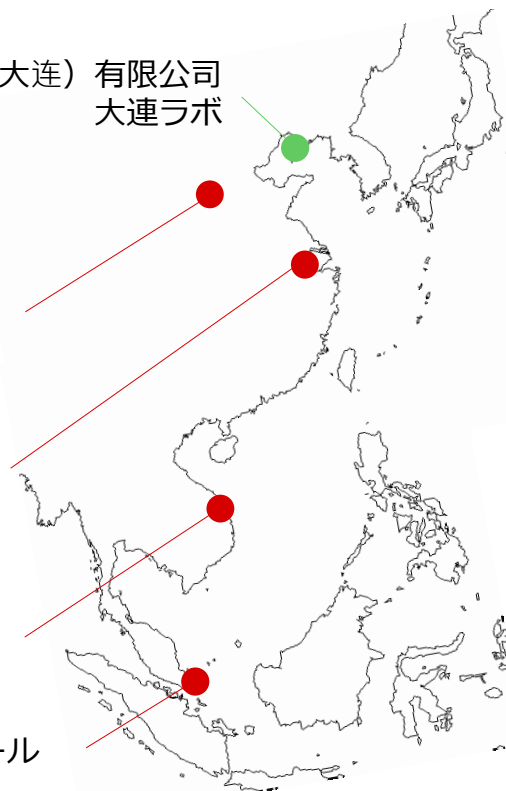
文雅科信息技术（大连）有限公司  
大連ラボ

文雅科信息技术（上海）有限公司  
北京オフィス

文雅科信息技术（上海）有限公司  
上海本社オフィス  
中国国内サポートセンター

アジア・グローバルサポートセンター

ウイングアーク・シンガポール



### 【中国】

文雅科信息技术（上海）有限公司

地址：上海市黄浦区淮海中路398号博银国际大厦15阶DE1室

邮编：200020

文雅科信息技术（大连）有限公司

地址：大连市西岗区中山路147号森茂大厦20F 邮编：116011

### 【シンガポール】

WingArc Singapore Pte. Ltd.

20 Collyer Quay #23-01, Singapore 049319

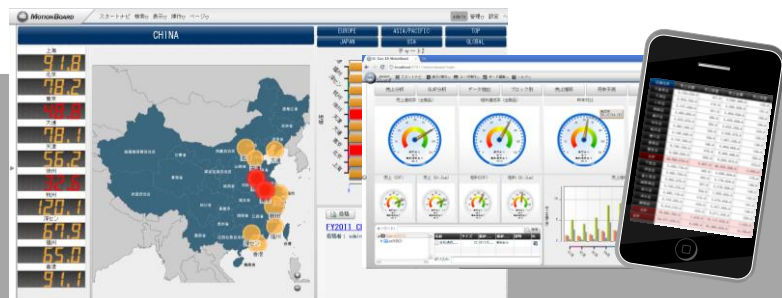
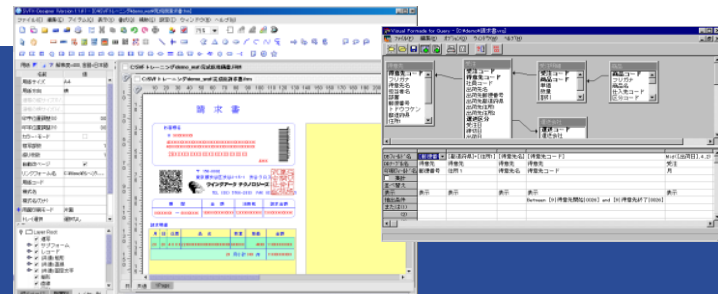
# 主要ソフトウェア製品ラインナップ

1ST



エンドユーザー志向で開発されたシェアNo.1の帳票ツール

## 帳票基盤ソリューション



ビジネスを加速する、現場改革BI

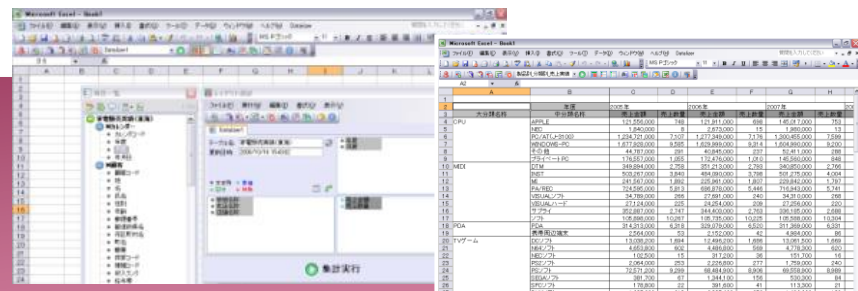
## 情報活用ダッシュボード



3rd Party  
Data Gallery

“数字”が見える、次の一手が打てる

## 集計・分析プラットフォーム

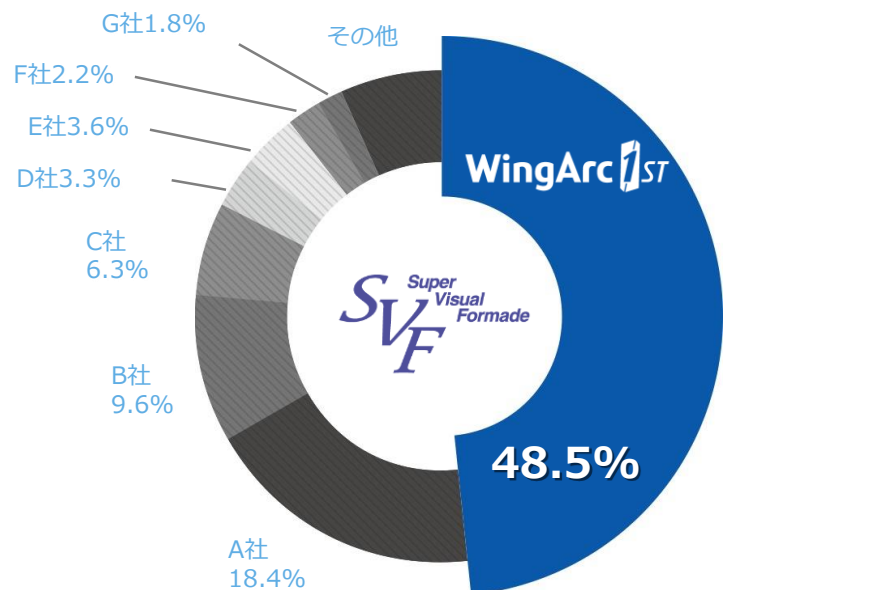
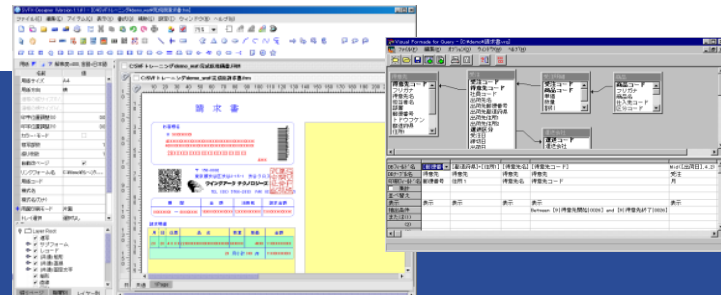




エンドユーザー志向で開発されたシェアNo.1の帳票ツール



## 帳票基盤ソリューション



2013年度出荷金額ベース

出典：ミック経済研究所  
ミドルウェアパッケージソフトの市場展望【オペレーション・DB編】 2014年度版  
帳票オペレーションパッケージ出荷金額（メーカー出荷）

## 国内シェアNo.1 導入実績 18,000社

※累積社数（2015年2月現在）



札幌市



今日を愛する。  
LION

最新お客様事例



## ■ 高橋 裕之（たかはし ひろゆき）

- 1989年から約26年仕事としてソフトウェア開発に従事。過去の在籍企業は6社、常駐を含めると10社以上を渡り歩く。参画プロジェクトは数えきれない
- 2005年からソフトウェア品質向上活動
  - SEPG、PMOの組織化や組織プロセスの構築に従事
  - SPI Japan 2006「ソフトウェアプロセス&ソフトウェアプロジェクト・マネジメント協調論」発表 [LINK](#)
  - SPI Japan 2008「計画は“書く”のではなく“立てる”もの。プロジェクト計画とサイズ見積もりの実践事例」発表 [LINK](#)
- 2013年3月に 1 s t ホールディングス株式会社へ転職
  - 経営統合により社名をウイングアーク 1 s t 株式会社に。 [LINK](#)
  - SPI活動、PMOの組織化に従事。現在に至る

## ■ 派生開発推進協議会（AFFORDD）役員 [LINK](#)

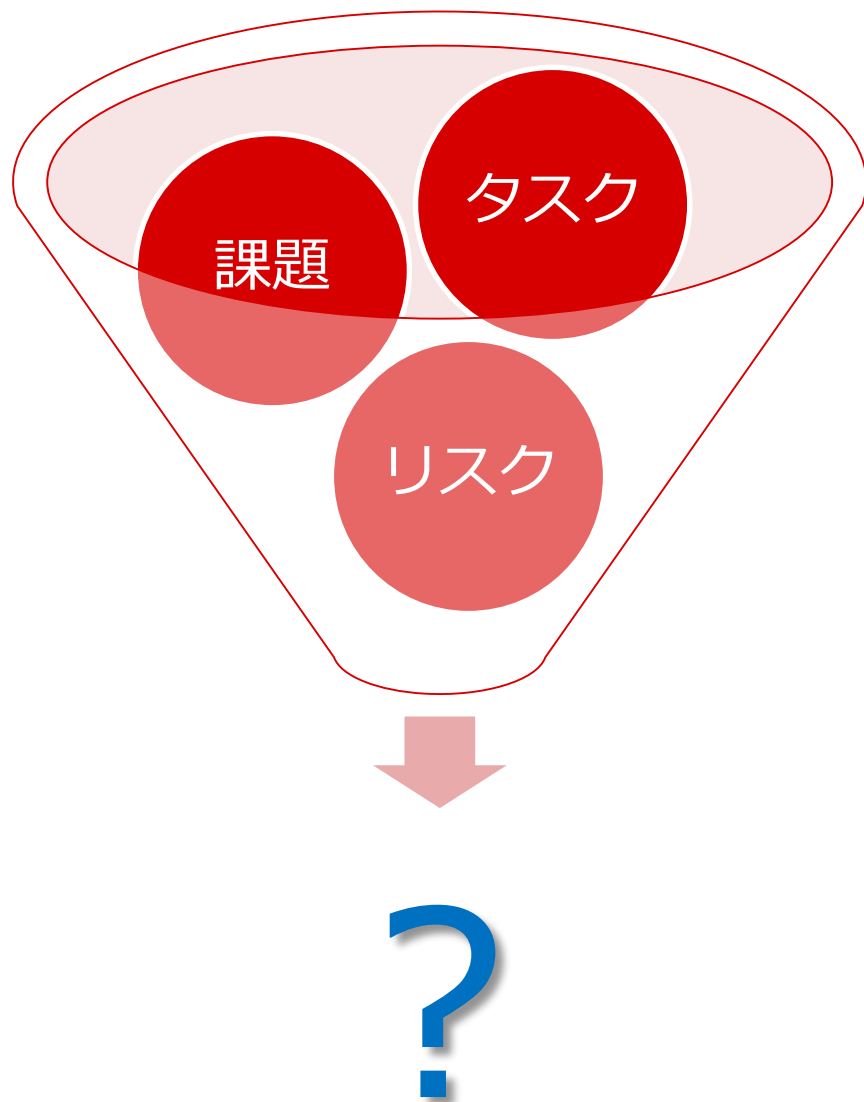
## ■ 認定スクラムマスター（CSM） [LINK](#)





# はじめに

## 背景



- 現在のソフトウェア開発は短納期・高品質を強く要求されている
- そこでタスク、課題、リスク、進捗などを効率よく管理し、かつ組織全体の情報共有を実現するためには何らかのプロジェクト管理ツールが必要不可欠である

- 一昔まえであれば、勝手にサーバーを建ててオープンソースの Trac や Redmine をインストールし、サクッとオペレーションを開始していたと思います
- だが、今や個人レベルでは責任がとれない時代



チーム  
開発

ユーザー  
管理

OSS脆弱  
性対策

Version  
Up 作業

定期  
Backup

クラウド  
化

- ソフトウェア開発組織はプロジェクト管理ツールや構成管理ツールなどのリソースを集約し「開発共通インフラ」とか「情報共有基盤」と呼ばれる環境を構築
- オペレーションは情シス（情報システム部門）の責任とし、開発サイドへ提供することで資源利用の効率化を図ることが多い。
- これは必然的な流れである

なお、今回はツールの  
選定や導入の話では  
ありません  
申し訳ございません



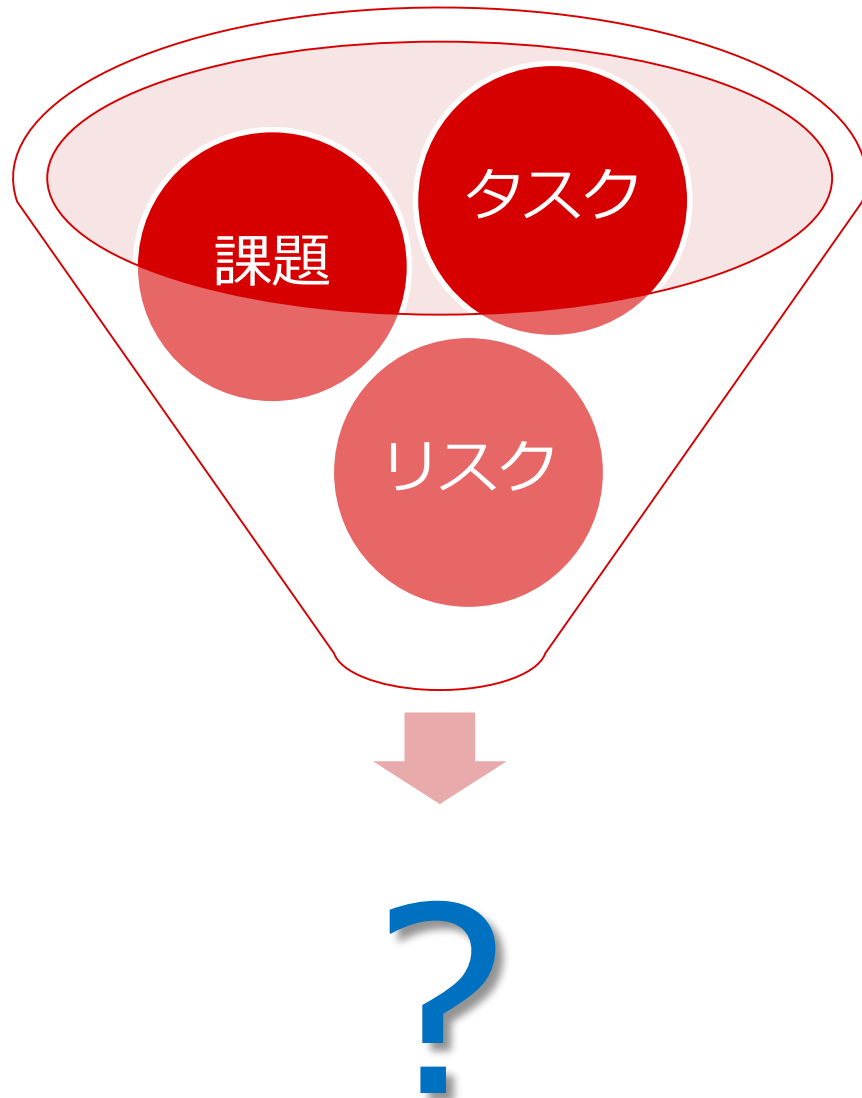


会社を選定したプロジェクト管理  
ツールがすでに在ったとき、その  
ツール利用に関して起こる様々な  
問題とその是正策

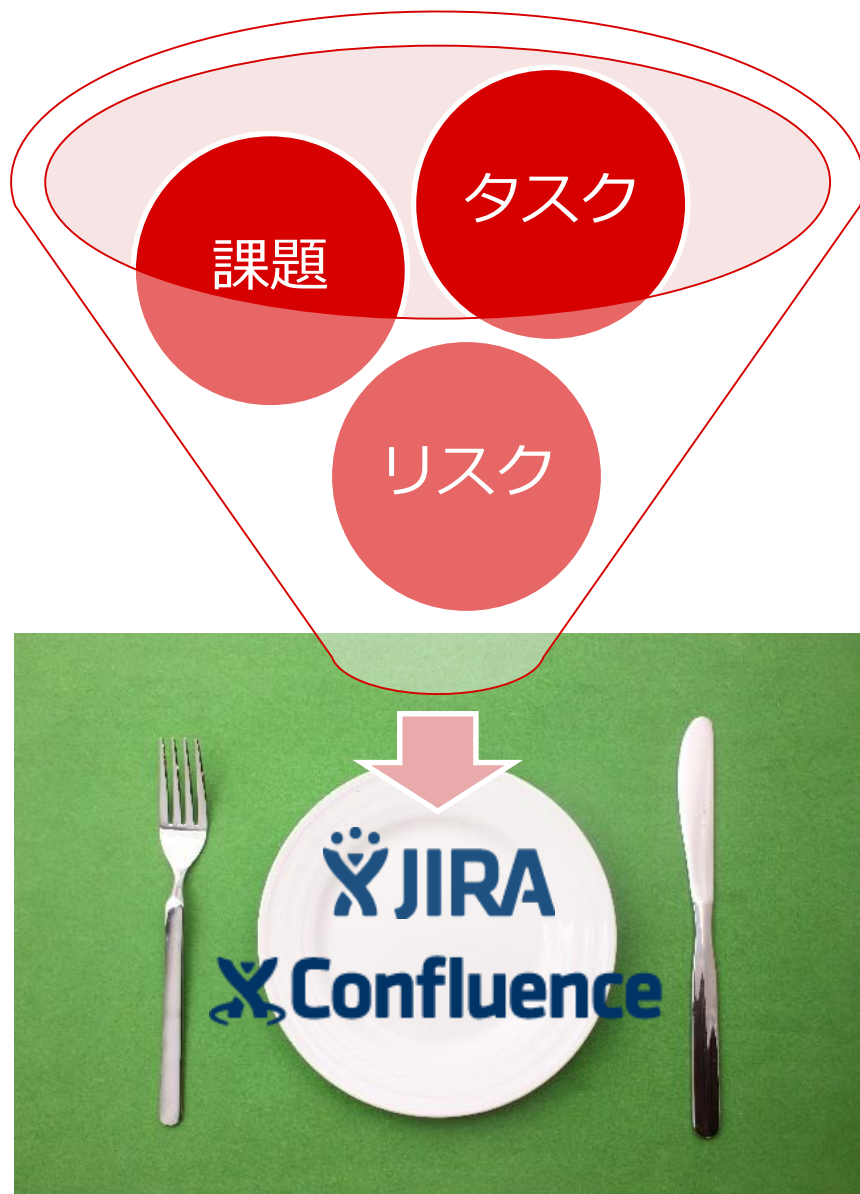


## この問題に直面する人

- 転職したてのエンジニア
- 請負常駐・派遣のエンジニア
- 下っ端のエンジニア







- 入社したら決まっていた
  - 情シス主体で「開発共通インフラ」の整備
    - 課題・タスク管理に JIRA（プロジェクト管理ツール）
    - コンテンツ管理に Confluence（情報共有ツール）
  - 本格的な利用を開始したばかりだった
- まるでデジャヴ！
  - 前職も前々職も同じ状況

現場の人からすると「ツールはすでに存在している」ことが多い

- キチンとした導入プロセスを経ているとは思いますが、でも、導入の背景とか狙いとかは、思いのほか現場のひとには伝わっていません
- マニュアルどこ？プロセスあるの？カスタマイズ出来るの？

最近のツールは「自由度が高い」です

- 「何が出来るか？」の機能面で選定しがち
- 実際、なんでも出来ます。実現アプローチも多種多様です

「自由度が高い」ということは？

- 「簡単」にも「複雑」にもなる。つまり色々と問題が発生しやすい  
(あれ？なんだかソフトウェア開発と似てますね...)

# 今そこにあるツール

## 改善前の状態



1. 使ってみたが何かがおかしい

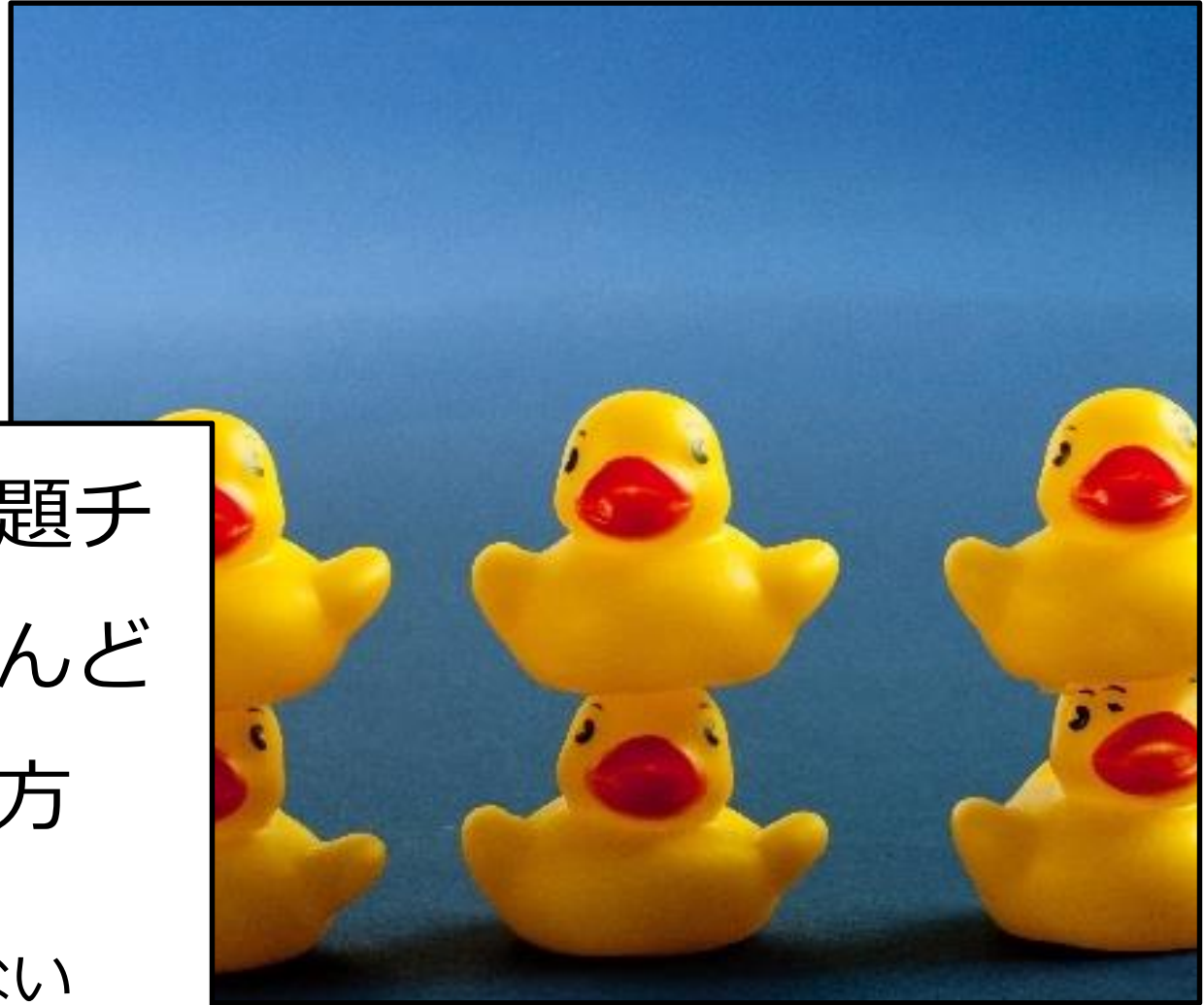
タスクチケットの  
ステータスがOpen  
のまま

- ・タスクはもう終わっているのに



ツールに課題チ  
ケットがどんど  
ん溜まる一方

- 少しも減らない



チケットを見ても  
どんな作業かわか  
らない

- 必要なことが書かれて  
いない

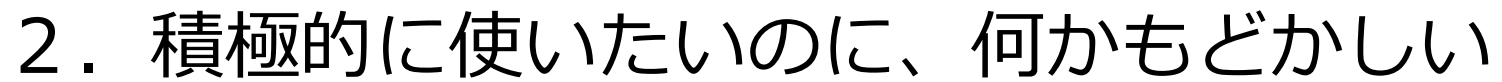




激しいコメントの応酬があるのに、担当者はずっと同じ人

- キャッチボールって知ってる？





2. 積極的に使いたいのに、何かもどかしい



画面の項目を増やしたいが、誰  
に言えばいいのかわからない

# 積極的に使いたいのに、何かもどかしい



ワークフローがデフォルトのままオペレーションされている

# 積極的に使いたいのに、何かもどかしい



レガシー（既存）システムを新ツールに  
置き換えたいが、何をどうやって始めれ  
ばいいのかわからない



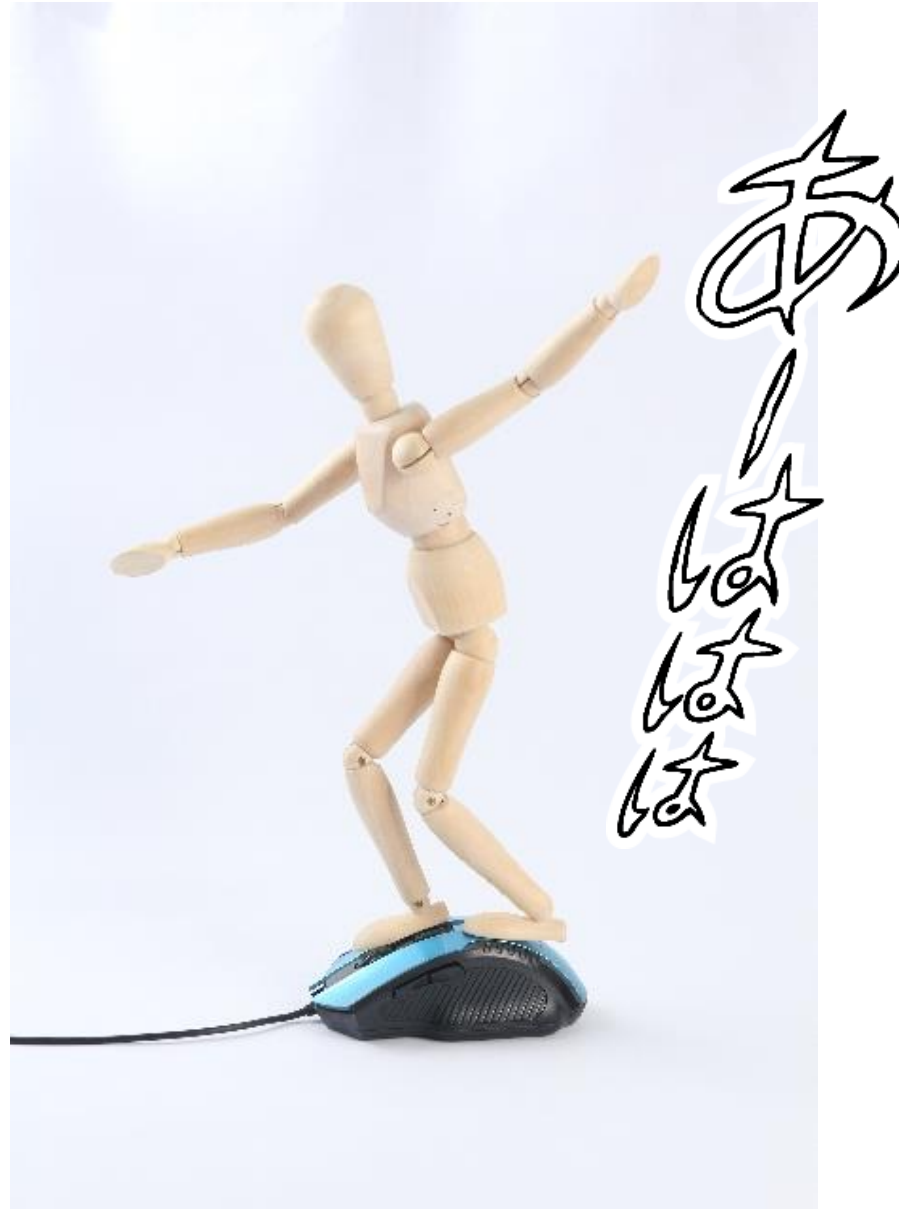


ナレッジツールが自由すぎて、かえって  
ドキュメントが読みにくい、可視性が悪い



## 3. 使おうとしない





使ってみたが何かがおかしい

- タスクチケットのステータスがOpenのまま。タスクはも終わっているのに。
- ツールに課題チケットがどんどん溜まる一方で少しも減らない。
- チケットを見てもどんな作業かわからない。必要なことが書かれていない。
- 激しいコメントの応酬があるのに、担当者はずっと同じ人。

積極的に使いたいのにな、何かもどかしい

- 画面の項目を増やしたいが、誰に言えばいいのかわからない。
- JIRAワークフローがデフォルトのままオペレーションされている。
- レガシー（既存）システムを新ツールに置き換えたいが、何をどうやって始めればいいのかかわからない。
- ナレッジツールが自由すぎて、ドキュメントが読みにくい、可視性が悪い。

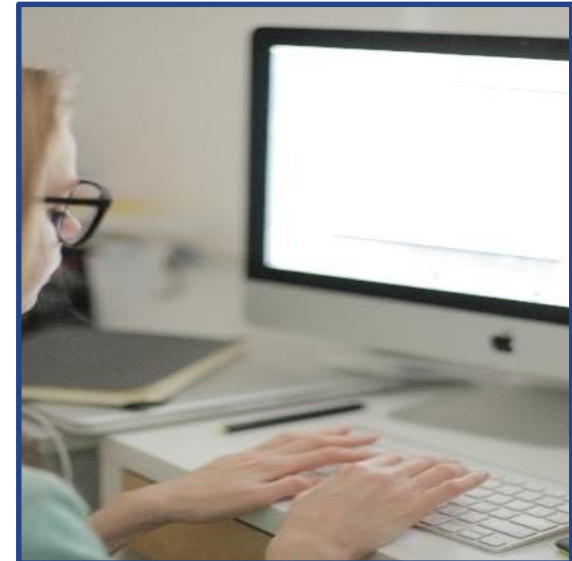
使おうとしない

なぜ、こうなるか  
改善前の状態をもたらした原因（因果関係）



有識者によるツール選定プロセスを経て導入されたシステムであるが  
「さあ！使いなさい！」  
と言われただけでは現場は戸惑うだけである。

これが、もしチームが独断でサーバーを建てて Redmine をインストールし、利用し始めていたならトレーニングなど受けずともWebや書籍で必死に情報を集めオペレーションをしていた事だろう。





- SPI活動に関わる人にとっては当たり前であるが、改善はまずは状況の分析から初め、現場の人間が課題を認識していなかったら、それを認識させることから始める。
- プロセス改善の本質を理解しているので、限られたリソースのなかで優先順位を付けながら改善計画をたて、IDEALモデルを回しているはず。

「さあ！ここにあるツールを使って！」とだけ言っているのであれば、いきなり行動フェーズ（Acting）から初めているようなものであり、上手くいかないのは自明である。

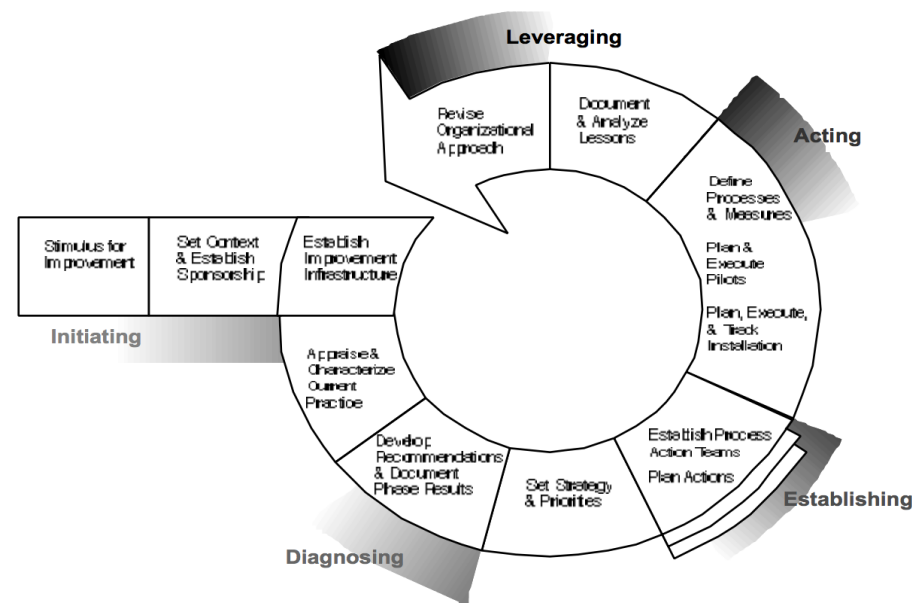


Figure Intro-1: The IDEAL Model

## SPIリテラシー

- プロセス改善の定石を踏まえ、起きている問題（事象）認識と解決が出来る能力
- SPIリテラシーが高いエンジニアやSEPG、PMOの存在如何で、その後プロジェクト管理ツールの活用には大きな差が生まれると考えている。



# 問題を解決しよう

## 計画した変更内容

# ツールオペレーションタスク

プロジェクト作成

ワークフロー作成

画面作成

メンバーアクセス  
権限管理

プラグイン管理

バージョンアップ

チケット管理

オペレーション

オペレーション・  
ルール作成

課題分析&改善計  
画

マニュアル作成&  
説明

SLA（サービス品  
質保証）

サーバーメンテナ  
ンス



情シス



現場  
(開発者)

# ツールオペレーションタスク

プロジェクト作成

ワークフロー作成

画面作成

メンバーアクセス  
権限管理

プラグイン管理

バージョンアップ

チケット管理

オペレーション

オペレーション・  
ルール作成

課題分析 & 改善計  
画

マニュアル作成 &  
説明

SLA（サービス品  
質保証）

サーバーメンテナ  
ンス



情シス

白い部分は、どっ  
ちが行うべき...？



現場  
(開発者)

「やらなければならないタスク」  
を「情シス」と「現場」の2つの  
組織だけでやろうとするから無理  
が出る



情シス

白い部分は、どっ  
ちが行うべき...？



現場  
(開発者)



# 3つのドメインで考える

## システムオペレーションドメイン

SLA (サービス品質保証)

プラグイン管理

バージョンアップ

サーバーメンテナンス



情シス

## プロジェクト管理ドメイン

プロジェクト作成

メンバーアクセス権限管理

チケット管理

オペレーション



現場  
(開発者)

## ソフトウェアプロセス改善 ドメイン

課題分析&改善計画

ワークフロー作成

画面作成

オペレーション・ルール作成

マニュアル作成&説明



SPI専門家

# SPI 専門家の出番です！

## 実現方法

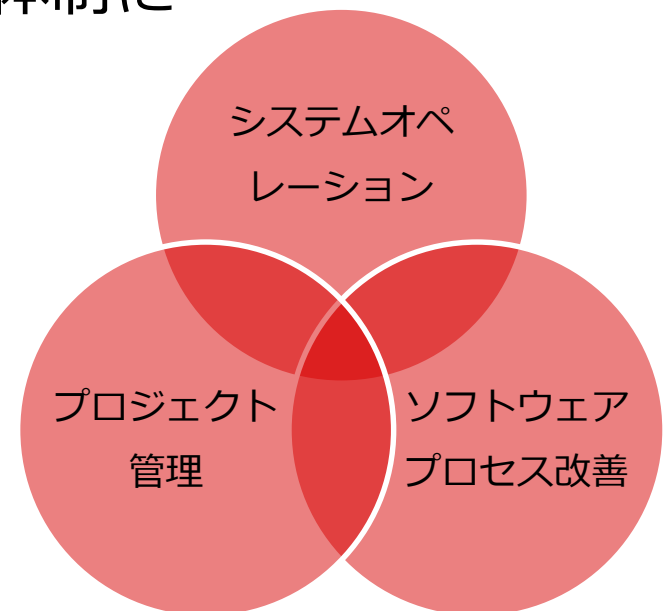


## ■ 「3つのドメイン」体制へのアプローチ

- オペレーションコストが高く課題も多かった既存システムの一つを、JIRAへ置き換える作業をして見せ、周りから信頼を勝ち取る
- きちんとした作業過程を見せる
  - 現状分析
  - JIRAシステム移管に関するFit&Gap 分析

- 移行計画をキチンと立て、説明する

- 情シスに相談しながら作業を行う
- 自然と（しかし意図を持って）3つのドメイン体制に



## ■ 計画されないものは実行されない

- 現場で明らかに横たわる課題から「ささやかれる」不満まですべてを分析対象とし改善計画を立てるようにした
- また、計画をステークホルダーにレビューしてもらうことで見逃していた課題が見つかることがあった

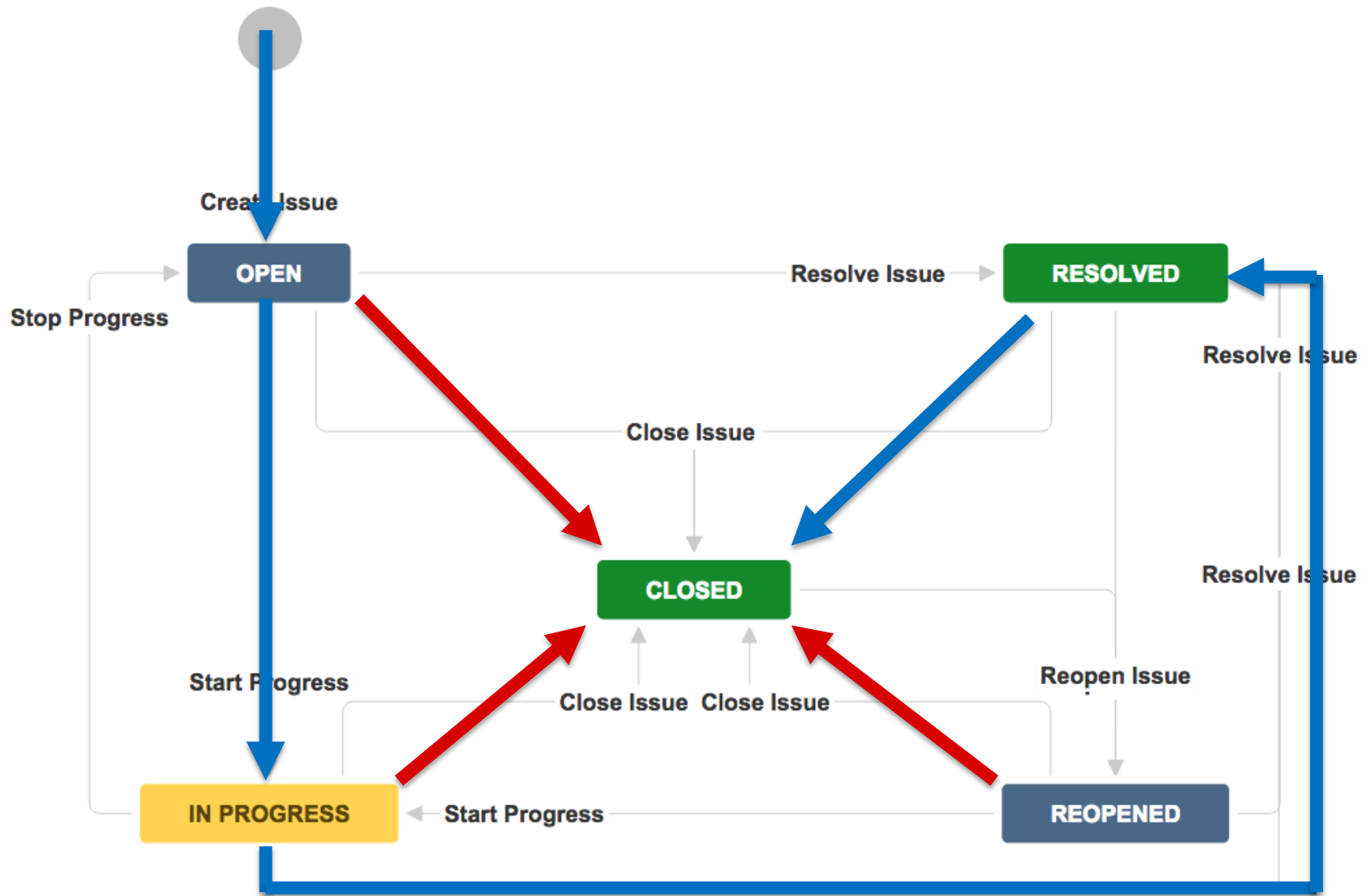


（参考）デジエとJIRAのフィールド対応表

デジエ	JIRA	例
レコード番号	[デジエ]機能要望No.	
登録日時	なし	
登録者	なし	
更新日時	なし	
更新者	なし	
依頼番号	なし	
依頼日	なし	
エンドユーザ	エンドユーザ	
Sier様名	Sier	
業種	業種	
システム種別	システム種別	
製品種別	製品種別	
外部環境	なし	
担当営業	[デジエ]担当営業	
担当営業所属部署	[デジエ]担当営業所属部署	
営業MG	[デジエ]営業MG	
検討項目 (タイトル)	要約	
検討項目 (対象製品名、バージョン)	[デジエ] 対象製品名、バージョン	
検討項目 (OS・Ver・CPU)	環境	
購入状況	購入状況	
保守契約	保守契約	
検討依頼の経緯	検討依頼の理由	

### 今後の予定

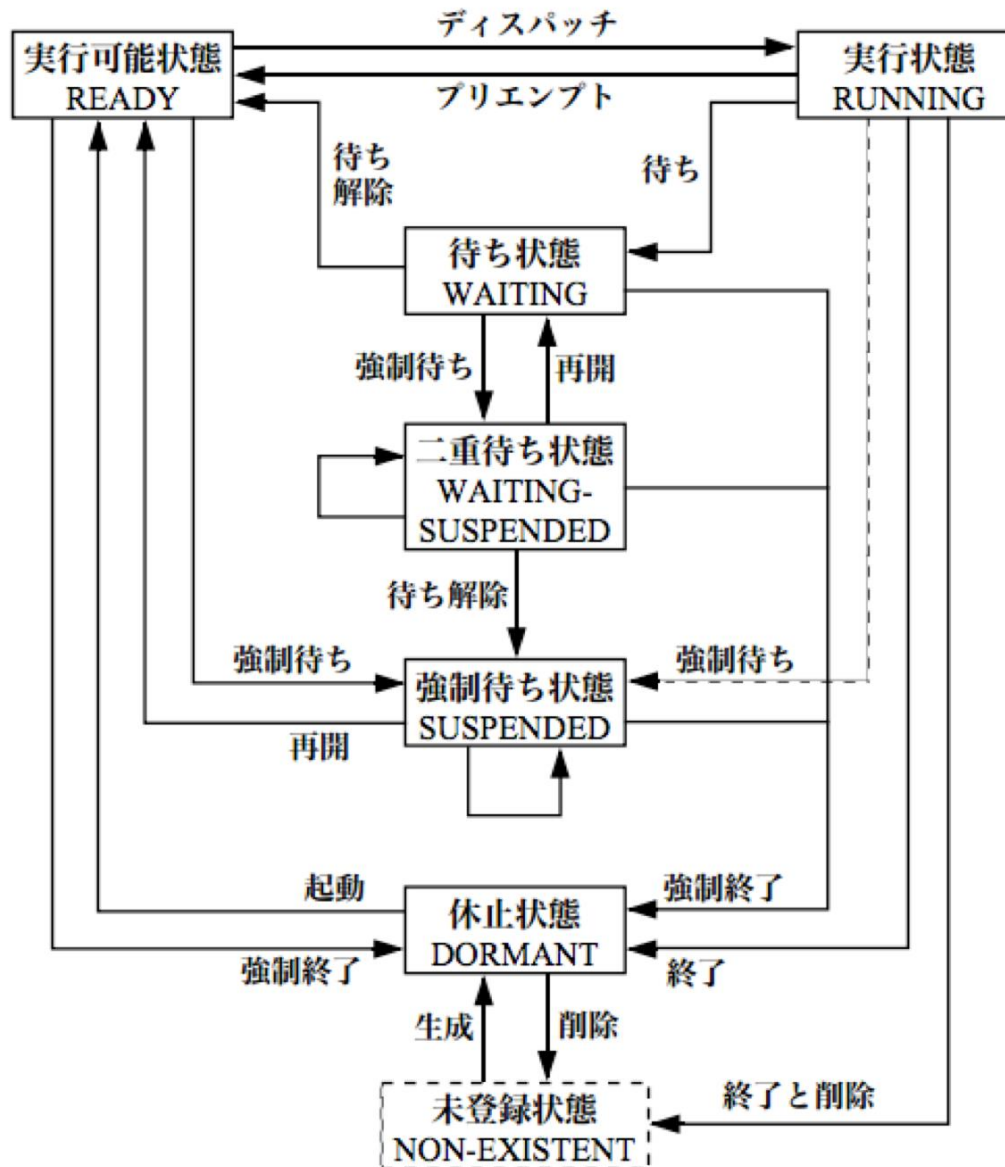
- 11月1日（金）以降、11月11日（月）の勉強会までの期間操作になれるための仮運用期間としてご利用いただけます。
- 営業本部向け説明会  
11/1 17:00-18:30（済）  
11/11 9:00-9:30 [ショート]
- 開発QA向け説明会  
11/5 15:00~16:00  
11/6 15:00~16:00
- CS向け説明会  
11/7 11:00~12:00
- 新潟開発QA向け説明会  
11/12 or 11/13（調整中）
- カットオーバーは11月11日（月）14:00を予定しております。

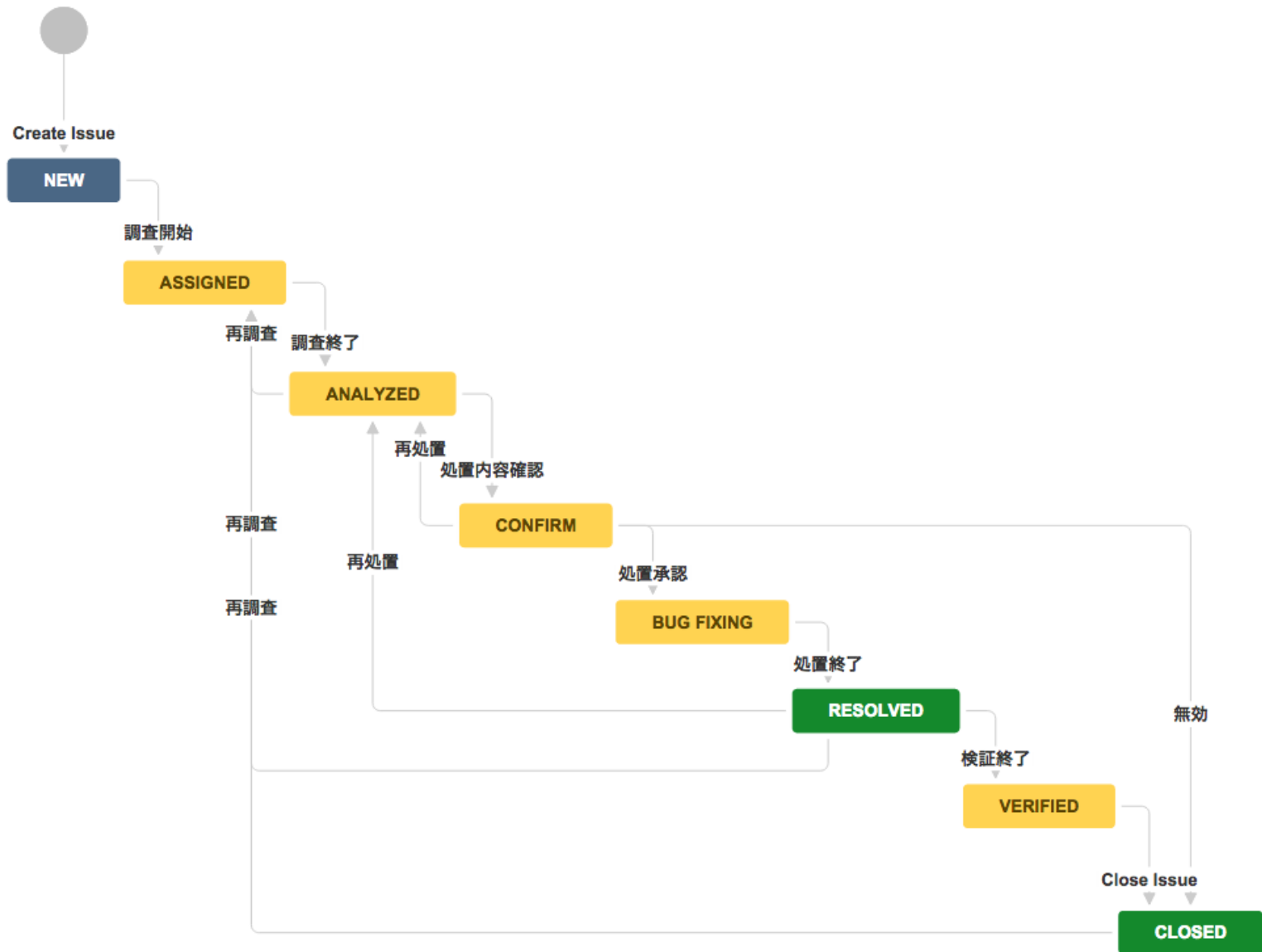


「人は選択肢が多くなると  
逆に行動を起こせなくなる」

決定回避の法則（提唱者：Eldar Shafir）







WingArc1ST

ダッシュボード

さらに見る

作成

## 課題の作成

プロジェクト

SVF Migration Tool for Java Edit

課題タイプ

タスク

要約

優先度

中

説明

スタイル

B

I

U

A

添付ファイル

添付ファイル

フ

コンポーネント

入力して一致する可能性のある一覧を取

影響バージョン

入力して一致する可能性のある一覧を取

ラベル

入力を開始してラベルの検索や作成を実

作成

キャンセル

WingArc1ST

ダッシュボード

さらに見る

作成

検索

標準クイックサーチ

## 課題の作成

プロジェクト

SVF Requirements Management

課題タイプ

要求

★要望

★保守情報

★関係者

★スケジュール

要約

検討項目（タイトル）を記入します。要望内容がひと目で分かる簡潔なタイトルを付けるよう、なるべく心がけてください。（あとで修正が可能です）

コンポーネント

入力して一致する可能性のある一覧を取得するか [down] を押下して選択してください。

コンポーネント = 「製品名、バージョン」です。複数指定可能です。

リストに無い場合は、「その他」を選択して下記フィールドに直接入力してください。

その他対象製品名、バージョン

入力を開始してラベルの検索や作成を実行するか、候補のラベルを選択してください。

新規入力の場合、お手数ですがスペースがある場合はアンダーバーに置き換えて記入してください。（JIRAがスペースを単語区切りと認識してしまうため）

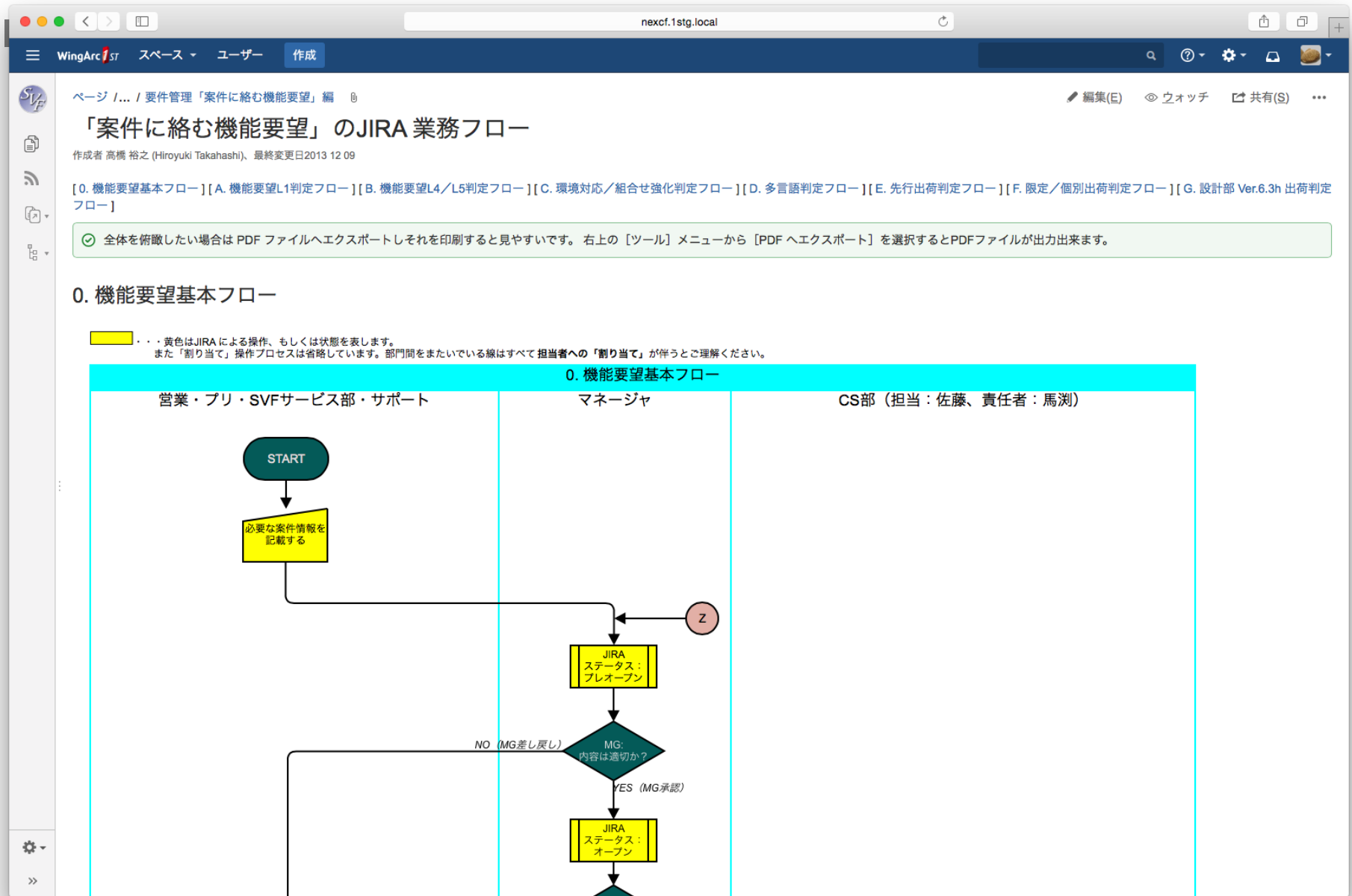
例：SVF\_FormFramework\_Ver9.1

検討依頼の経緯

検討依頼の内容

検討依頼の理由（対応メリットも含む）





WingArc 1ST スペース ユーザー 作成

ページ / ... / 要件管理「案件に絡む機能要望」編

## 概要説明

作成者 高橋 裕之 (Hiroyuki Takahashi), 最終変更日2014 08 01

### ファイル

> SVF要望管理「案件に絡む機能要望」編.pptx

クリックすると拡大

はじめに

本ドキュメントは「SVF要件管理」に関するプロセス、ならびにJIRAシステムの操作方法を説明したものです。

- 目的は機能要望管理に関するプロセスを見直し「デジタル化推進」という会議体の運営方法、目標を掲げ、機能要望管理のスピードを上げることです。
- 同時に、これまでサイボウズ デジタル ベースに行っていた機能要望管理をJIRAシステムへ移行します。

Agenda

- はじめに
- JIRAとは
- 機能要望のダッシュボード

「機能要望」にはライブサイクルがあります

- オープン → 編成 → 発注中 → 完了 → クロージド

「機能要望」にも6W2Hがあります

- What (何) 仕事の内容、種類、得意、得意
- Why (なぜ) 経緯、目的、経緯、理由、目的、必要性
- Who (誰が) 経緯、担当、グループ、中心となる、関係、人数
- When (いつ) 期日、期日、期日、期日、期日、期日
- Where (どこで) 期日、期日、期日、期日、期日、期日
- How (どのようにして) 期日、期日、期日、期日、期日、期日

スピード感がでない

スピードが上がる理由

「あなたの必要な情報」が上ってないから

WingArc 1ST スペース ユーザー 作成

ページ / SVF Developers Home

## SVF Dev Center

高橋 裕之 (Hiroyuki Takahashi) が作成し、2015 08 14 に 斎藤 学 (Manabu Saitoh) が最終更新

SVF Dev Center SVF PMO SVF Project Center SVF ROADMAP SVF 課題会議

① SVF Dev Center とは  
SVF Dev Center とは、SVF 開発者向けに情報を集約したポータルサイトである。

### 【最新】SVF課題会議議事録ショートカット

- SVF 課題会議 2015/09/28 Draft
- SVF 課題会議 2015/09/15
- SVF 課題会議 2015/09/07

### 情報共有

#### プロダクトConfluence (コンフルエンス)

SVF Project Center をご覧ください

#### 共通Confluence (コンフルエンス)

- SVF 座談会
- SVF 開発統括部
  - 00\_週報 2015年度
  - 98\_勉強会
  - 99\_保存箱
  - 関連リンク
- SVF インストーラー関連 ホーム
- SVF Knowledge
  - NPD2リファレンス
  - SVFデモ環境 Index
  - SVFドキュメント Index
  - SVF関連製品で使っている暗号化処理 (署名、承認、圧縮、暗号化、復号等)
    - 過去にパラメータシート作成済みのもの + 9.2
    - 9.2のみ
    - 9.2出荷以降統一で使えるパラメータシート

### 課題・要件・タスク管理

#### プロダクトJIRA (ジラ)

SVF PRODUCT 一覧 (JIRA) をご覧ください

#### 部門連携JIRA (ジラ)

タイトル	Key	JIRA Project	目的	かんばん	ダッシュボード Type A	ダッシュボード Type B
機能要望JIRA	SVFREQM	SVF Requirements Management	案件機能要望管理	+	案件に絡む機能要望	機能要望ダッシュボード
SP要望JIRA	SVFSP	SVF Service Pack	次期SP、Ver要望管理、旧ニーズ共有箱 (説明)		SVFSP、次期バージョン要望管理	
仕様確認JIRA	SVFSPEC	SVF Specification Confirm	仕様確認 (説明)		SVF仕様確認	
開発サポートJIRA	SVFDEV	SVF Developer Support	CSからのサポート依頼 & 仕様確認 (説明)		SVF開発サポート	開発者視点
課題会議JIRA	SVFSC	SVF Strategy Council	課題会議 (旧戦略会議)	+	SVF課題会議	
障害修正JIRA	SVFDC	SVF Defect Correction	障害修正管理 (説明)		SVF障害修正	
開発への問い合わせJIRA	SVFINQ	SVF Inquiry	社内問合わせ		SVF開発への問合わせ	
リリースノートJIRA	SVFRNM	SVF Release Notes Management	リリースノート管理 (説明)		SVFリリースノート総合	
PostShipJIRA	SVFPSM	SVF PostShip	PostShip管理 (説明)		SVF PostShip管理	

## ■ もっとツールを活用したい！



なるほど！

ワークフローをもうちょっと現場に合わせて改善したいね。  
それにバージョンとコンポーネントもキチンと整理しよう！  
あとカスタムフィールドも2, 3追加したい！

## ■ とあるA社情シス

うーん、それは難しいかなあ。  
もう全社プロセスは決まってて、ツールもカスタマイズ済みだからさ。そもそもホントにそれ必要なの？みんなに影響するから、やれる範囲でやってよ。



## ■ とあるB社情シス

まずはヒヤリングさせてください。改修の妥当性が確認できましたら、その後アナタの方から改善要望のワークフローを上げてください。なお必ず承認されるとは限りませんのでご了承ください。承認が下りたら作業に入ります。えっ？改修時期ですか？うーん、優先度はこちらで判断させていただきますので、最低1か月ぐらいかかると思います。





## Why Japanese people!?

- 良い改修提案なのに、全体に影響するからと言って変更したがない
- 僅かな改修でも大げさで時間がかかる
- ソフトウェア開発を知らないので話が通じない

どけ。

私がやる。



## システムオペレーション管理ドメイン

SLA (サービス品質保証)

プラグイン管理

バージョンアップ

サーバーメンテナンス

## プロジェクト管理ドメイン

プロジェクト作成

メンバーアクセス権限管理

チケット管理

オペレーション

## ソフトウェアプロセス改善 ドメイン

課題分析&改善計画

ワークフロー作成

画面作成

オペレーション・ルール作成

マニュアル作成&説明



Administrators

情シス



現場  
(開発者)



ここにも必要！  
Administrators

SPI専門家

どうなったか  
変更後の状態や改善効果

新規開発プロジェクトのプロジェクトマネジメントに必ずJIRAが利用されるようになった。

現在は23個のJIRAプロジェクトがオペレーションされ、プロジェクトの特性毎に、WBSやかんばん、Scrumボードを使い分けている。

また、組織間の課題解決にも10個のJIRAプロジェクトが活躍している。このうち8プロジェクトはレガシーシステムからJIRAへの置き換えである。



おわりに  
改善活動の妥当性確認

これから益々（有償／無償に係わらず）プロジェクト管理ツールの集約化と活用のプレッシャーは増えていくと思われる。その時、SPI の視点がないプロジェクト管理ツールのオペレーションは、局所的な「管理者権限」集約を招き、非常に使いにくく、利用率の低いシステムになってしまうだろう。

これを回避するには「SPI リテラシー」の高い人員を配置し、そこにツールの「管理者権限」を付与することはプロジェクト管理ツール活用の絶対条件となっていると経験によって確信している。

# ツール導入を成功させるために 必要と考える 2つの要素

SPI  
リテラシー

管理者権限



## この問題に直面する人

- 転職したてのエンジニア
- 請負常駐・派遣のエンジニア
- 下っ端のエンジニア



## この問題を解決できる人

- SPI 活動に従事する人
- SEPG や PMO に従事する人
- つまり、みなさん！



***Surprise 1st!***

---

オドロキが、世界を動かす。

1. IDEAL: A User's Guide for Software Process Improvement  
Publisher: Software Engineering Institute  
CMU/SEI Report Number: CMU/SEI-96-HB-001
2.  $\mu$ ITRON4.0仕様 (Ver. 4.02.00; 日本語版)  
(社) トロン協会 ITRON仕様検討グループ  
坂村健 監修／高田広章 編